

伊予三島ロータリークラブ

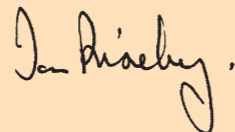


初冬の金砂湖・嶺南地方

ロータリー:変化をもたらす

事務局 四国中央市金生町下分865 四国中央商工会議所内
<http://www.iyomishima-rc.jp> TEL(0896) 58-3530
 E-mail:iyomis@iyomishima-rc.jp FAX(0896) 58-6294
 例会 金曜日 12:10~13:10
 ■会長/桂 高司 ■幹事/佐藤慎輔 ■広報委員長/石川 勉

Rotary: Making a Difference



2017-18年度国際ロータリー会長

No. 4 2

平成 30.4.20
 第 3 0 8 7 回

クラブ奉仕委員会



委員長 山内 一 正

会員増強を計る時にただ「お昼ごはんを食べにおいで。」ではなく、例えば今治ロータリークラブのように誰が見ても一目で解るポケットブックを作ってはどうか？。

さらには、入会時に頂く伊予三島ロータリークラブの定款・細則を熟読し、現在の会員がおかれている立場でより参加しやすくするなどの改正も必要ではないかと思われ、今後の課題としたい。

ロータリーとは何か



副委員長 新田 敏 晴

先ず第1に、ロータリーとは“Service above self”を信奉する人達の友好的な集まりである、と答えます。

第2に、ロータリーとは、あらゆる実業と専門職を、物の家庭の最初に「サービス」をおくという道徳的水準までに引き上げる一つ的手段であります、と答えます。

第3に、ロータリーとは、もっとも高価な商品ともいべき自分の時間を他人のために尽くすために、喜んで提供する人々の集まりである、と答えます。

第4に、ロータリーとは、自分の職業を、世のために人のためにあるものと認識している人々の集まりである。つまり、ロータリーとは、“Service through your business”の一語につきます、と説明します。

第5に、ロータリーとは、人生の生き方であり、人のために尽くすことに身をゆだねることであります、と答えます。

ロータリーのメカニクス、つまり、毎週の例会とか、クラブの構成、クラブのルールといったことを除いて説明するとすれば、ロータリーとは大体こんなものではないでしょうか。

私今が申し上げましたことは、このザ・ロータリアン1月号(1977)にのっている現 R. I. 会長 (Robert A. Manchester II) の“What is Rotary”という論説を、そのまま訳したものであります。

最も簡単に言いますと、ロータリーの哲学を受け入れた人々が、ロータリーについていろいろと勉強し、心境を高めるところ、それがロータリークラブであるということが出来ます。

ではここで、私達は、何を勉強することが期待されているかといいますと、先ず第1は、ロータリーの哲学理論を研究すること、第2に、この理論を自分に対し、又、自分の属する社会で実証すること、第3に、この哲学を自分の仕事の上で実践すること、第4に、ロータリアンでない人に対して、このロータリーの哲学を受け入れてもらえるように努めること。

『ロータリーは、奉仕クラブの一つであるといわれておりますが、ライオンズクラブのように奉仕を仕事とするところではなく、奉仕するロータリアンを作る教育をするところである。クラブ自体が奉仕することはあっても、それはロータリーの本筋ではなく、奉仕の主体は、あくまでも個人の会員である。従って、各委員会は、常にこのことを念頭において働く必要がある』ということになります。ライオンズクラブがある行事に名前を出しているから、ロータリークラブも名前だけは出しておかないと、工合が悪いんじゃないか、といった考え方は、ロータリーの綱領を不明瞭にするものでありまして、このようなことのないように、十分に気をつける必要があると思います。

さて、ロータリーの目的が、Service、即ち、Service above selfであり、その活動が「サービス」活動であることを話して参りましたが、この「サービス」という言葉の意味するもの、つまり、「サービス」という言葉の概念はどういうものかを、私たちは正しく認識する必要があるように思えます。そこで、ロータリーの「サービス」という概念はいったいどういうものであるかを、ロータリー70余年の歴史を振り返りながら探ってみたいと思います。

御存知のように、ロータリーが創立された1905年から1910年頃までは、ロータリーにはまだ、はっきりとした目的はなかったわけでありまして。この頃のロータリークラブというのは、食事を共にして、楽しいことをやり、友情を深めることが、凡その目的であったのであります。この頃のシカゴクラブの実際的な活動として、互惠取引というものがあつたことは既に御承知の通りであります。これは、会員相互間の取引関係を促進させて、お互いの利益を図ることがねらいであったわけでありまして、しかし、この互惠制度も、一成功を収めた実業家たちにとっては、次第にその魅力が失われていったのであります。そして、相互扶助と友情を深めるだけのクラブに疑問を持つ会員も、ぼつぼつと出始めてきたのであります。つまり、クラブの存在理由として、他に立派な目的があつて然るべきではないか、というわけでありまして。

このような中で、1910年、第1回全米ロータリークラブ連合大会がシカゴで開かれていました。この大会で、“進歩的で名誉ある取引方法を促進せよ”という項目が決議されております。そして、5年間続いてきた互惠取引制度は、遂に決議項目からはずされることになったのであります。ロータリーは、5年間でこれだけ進歩したことになります。この年、ポール・ハリスは、“ロータリーの新しい理想を探る委員会”というものをつくりまして、その委員長に、アーサー・シェルドンを任命したのであります。ここに始めてロータリーの目的探しが始まるのであります。

その当時の世相と申しますか、商売のやり方は、悪徳と不信用が横行し、消費者は自分で自分を守るより他に方法がなかった時代であるといわれておりますことは、御承知の通りであります。このような商売の中にあつて、その中に例外のあることを、シェルドンは発見したのであります。それは、寛容をもって、適正で、公明に経営されている商店や会社の中に、最も成功しているものがある、という事実だったのであります。シェルドンは、その成功の秘密を探求した結果、遂に結論を得たのであります。その結論とは次のようなものであります。

即ち、「他人の立場を考えて、その人の立場を考えて、その人のためになるように尽くすこと、即ち、“Service”がこれだ」という結論です。ここに初めてロータリーの中に、よく考えぬかれた“Service”という言葉が出てくるのであります。シェルドンは、この「サービス」をロータリーの目的にすることに精魂を傾けたといわれております。そして或る日、彼の頭の中に、有名な、“He profits most who serves best”という言葉がひらめくことになるのであります。

『ロータリー情報委員 常盤太助より』

第3087回 例会 記 録 平成30年4月20日

開会 桂 高司 会長

ニコニコ紹介

出席報告

山内一正 クラブ奉仕委員長～

出席会員 (37名中) 28名

本日の例会はクラブ奉仕委員会の担当です。よろしくお願ひします。

出席率 82.35%

金崎敏明君～16日の父 敏雄の葬儀の折には、桂会長様はじめ多くのメンバーの方々にご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

第3085回修正出席率 96.97%

会長の時間

5月4日プログラム予定
 休会(みどりの日)

幹事報告

- ・RI理事エレクト 三木 明氏～2018 JAPAN RYLAセミナー受講生ご推薦・ご登録のお願い
- ・生駒時計店 ～ ロータリーグッズ・カタログ

例会行事

クラブ奉仕委員会

5月8日プログラム予定
 SAAの時間

山内一正 委員長
 新田敏晴 副委員長